

ジャウイ文書研究会ニューズレター

第 11 号 2004 年 6 月 12 日

Jawi Study Group Newsletter No.11 12 June 2004

発行者: ジャウイ文書研究会事務局

<http://homepage3.nifty.com/tao/jawi-study/>

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

電話/FAX 042-363-0319

東京外国語大学外国語学部 青山 亨研究室

E-mail taoyama@tufs.ac.jp

目次

I.	研究会予定	1
II.	『1887 年 6 月、ペラクの民からの祝辞』翻字案 坪井 祐司	2
III.	東南スラウェシ、プトン・スルタン国の文書: 『アブドゥル・ムルク・ザハリコレクション』 から 山口 裕子	5
IV.	ダルワン文書に使用された紙に関する研究 Teguh Sehanuddin	10
V.	インドネシア写本学会 (Masyarakat Pernaskahan Nusantara: MANASSA) 国際シンポジウム のお知らせ 菅原 由美	17
VI.	1993 年版ジャウイ正書法の字母表における変更点	18
VII.	研究会記録 第 18 回研究会記録 (2003 年 6 月 2 日) 第 19 回研究会記録 (2003 年 12 月 6 日)	20 21
VIII.	事務局からのお知らせ: メーリングリストの名称変更	22

I. 研究会予定

第 20 回研究会の予定: 2004 年 6 月 12 日 (土) 9:45-11:15. 東京大学駒場キャンパス 8 号館 4 階 405 会議室。以下の内容を予定しています。

- 1) アラブ人ネットワーク・プロジェクト立ち上げの説明 (奥島美夏)
- 2) 急進派ネットワークについての研究紹介 (見市建)
- 3) ジャウイ文書分布範囲地図について (川島緑)
- 4) プトン文書紹介 (山口裕子)
- 5) ジャウイ文書講読の今後の方針について (討議)

II. 『1887年6月、ペラクの民からの祝辞』翻字案

坪井 祐司(東京大学大学院)

以下の文章は、2003年12月のジャウィ研究会におけるジャウィ購読に使用したテキストの翻字案である。この文章は、ヴィクトリア女王の即位五十周年の記念式典における祝辞であり、マレー半島のペラク州の代表者が起草したものである。この文章は、*Journal of the Straits Branch of the Royal Asiatic Society* 18(1886), pp369-371 に掲載された。

翻字案は基本的に現代マレーシア語の綴りで記し、英語の部分は英語で記したうえで注に原語を付した。また、研究会においても不明なままでのこされた箇所に関しては、括弧にいれて注に原語を記した。加えて、綴りが通常のものとは異なるなどあいまいな箇所には適宜注を付し、原語を記している。

Jubilee Address by Perak ra'iyats, June, 1887

p.369

nur al-shams wa'l-kamar

Daulat tuanku syah alam zillullah fi'l-'alam khalifah man bani
adam aladhi malik al-karim khuld allah muluk hu wa zadah fi martabati al-izm
ma damat al-layla wa al-ayyam.

Daulat tuanku permaisuri queen victoria¹ yang maha mulia ampun
tuanku beribu² ampun penuh limpah sedia terjunjung diatas jemala ubun²
[plmbh?]² tuan sekalian rakyat didalam negeri Perak darul rizuan³.

Bermaklumkan kebawah tapak cerpu duli hazrat yang maha mulia yang
bersemayam diatas singgahsana takhta kerajaan negeri England⁴ serta
takluk jajahannya dengan selamat sempurna adanya.

Daulat tuanku permaisuri ...queen Victoria yang maha [mngmuri?]⁵
derma kurnia kelembahan memberi ...yang maha masyhur tiap² hari
bersemayam diatas singgahsana ...tahkta kerajaan yang maha sempurna

¹ k-u-i-n w-i-k-t-o-r-i-a(كوين ویکتوریا)。

² 不明 p-l-m-b-h (فلمبه)。

³ ペラク王権の呼称(優雅な地という意味)。マレー半島の王権はそれぞれ Darul ...という呼称を持っており、それらは現在の州名にまで受け継がれている。

⁴ a-ng-g-l-n(اغکلب)。なお、本来のジャウィでは ng には点が3つ、g には線ではなく点がつく。

⁵ 不明 m-ng-m-u-r-i(مغموري)。なお、本来のジャウィでは ng には点が3つつく。

aliyat⁶ kebesaran sekalian terkena ... yang maha masyhur ke-mana²
queen Victoria yang maha mulia... yang maha tinggi lagi bahagia
martabatnya besar sangat maha kaya ... tiadalah bandingnya didalam dunia
yang maha baik budi bahasanya ... serta maha elok sebarang perangnya
limpah dan makmur segenap perkaranya ... tetap kerajaan se-lama²nya
sudah diperintahnya diatas negeri ... serta jajahannya takluk diberi

p.370

lima puluh tahun sudah memerintah diri ... nama yang keceraan tiadalah didengari
suatupun tidak cacat celanya ... memerintahkan negeri maha adilnya
memeriharakan diatas rakyat belanya ... selamat sempurna segenap perkaranya
dibahagi tuhan seru alam ... berkat Isa 'alaihi al-salam⁷
kemuliaan maha besar siang dan malam ... menerangkan sekalian diatas yang kelam
sebuah negeri sudah dikelekkkan ... Perak namanya pula disebutkan
tuan Sir Hugh Low⁸ Resident⁹ dinamakan ... raja melayu nasihat pula diajarkan
dikhabarkan adat memerintahkan negeri ... beberapa nasihat pula diajari
dengan aturan hukuman diberi ... jaga pelihara sebilang hari
segala raja² orang besarnya ... penghulu dan rakyat tenteranaya
dijalankan hukuman didalam undangnya ... selamat sempurna sekalian tempatnya
tinggi daulat¹⁰ permaisuri ... bertambah ramai didalam negeri
dengan kemurahan sebarang yang dicari ... duduk kesenangan se-hari²
senang dan makmur barang sebagainya ... sembah terjunjung harapkan ampunnya
didas hamba tuan rakyat semuanya ... harapkan ampun khilaf bebalnya

Dan adalah sekalian rakyat negeri perak mendapat jamuan
yang sangat murah dan makmur dikurniai tuan Sir Hugh Low K.C.M.G. ¹¹
Resident Perak yang teramat mulia kepada 27 haribulan Jun 1887 akan minta
berbanyak doa dengan selamatnya diatas permaisuri queen Victoria yang maha
mulia yang sudah tetep diatas singgahsana takhta kerajaan.

⁶ a-l-t(علة). aliyat(عليه)か。

⁷アラビア語成句か(بركت عيسى علسلام)。

⁸ s-r h-i-u l-o(سيرو) Hugh Low(1824-1905 年)は当時ペラク州理事官(在任 1877-1889 年)。ローの経歴に関しては、E.Thio, 1969, *British Policy in the Malay Peninsula*, University of Malaya Press, Kuala Lumpur, p.5 参照。

⁹ r-s-d-e-n-t(رسدينه)。

¹⁰ 原文では d-u-l-ny(دولت)であるが、daulat(دولت)の誤りではなからうか。

¹¹ Knight of Commander of St. Michael and St. George の略。聖マイケル・聖ジョージ勲章は、1818 年に制定された一代限りの勲爵士の称号。主に英連邦や植民地で功績のあった外交官に送られる。安東伸介ほか編『イギリスの生活と文化辞典』研究社、1992 年、834-837 頁参照。

Dan lagi banyak harap sekalian rakyat bela didalam negeri Perak
akan berpanjangan umur zamannya seperti yang telah lalu itu demikianlah sembah

p.371

rakyat bela didalam negeri ini kebawah tapak cerpu duli yang maha mulia
itu adanya.

Mohamed Ali bin Maden¹² yang menazamkan
rakyat sekalian minta buatkan
Che' Mat¹³ kerani dengan To' kerani Abdullah yang menjalankan
rahmat yang kelimpahan sangat diharapkan
tetapi ada seorang disitu
Encik Ibrahim Khan¹⁴ nama yang tentu
didalam pekerjaan ini ialah membantu
memeriksa sekalian kira2 itu
27 haribulan Jun surat ini tamat
menyurat tiada berapa cermat
mudah2-an harapkan rahmat
dunia akhirat biarlah selamat
seribu delapan ratus tahun disebutkan
delapan puluh tujuh lagi disamakan
yang teramat mulia sangat diharapkan
barang yang khilaf harap diampunkan.

(大意)¹⁵

ペラクのすべての人民の君主である慈悲深きヴィクトリア女王陛下。

偉大なるイングランドおよび諸邦の王へお知らせいたします。

ヴィクトリア女王陛下のあふれでる徳は日々知れわたる
王の大いなる威厳は至るところに知れわたる
高貴で祝福されたヴィクトリア女王陛下の威光は強力で、世界に比類ない
その作法は上品で虹のように優美で、すべてが繁栄し統治は永遠に続く

¹² m-h-m-d a-l-i b-n m-a-d-e-n(محمد علي بن مادين)。

¹³ ch-e m-t (چي مة)。

¹⁴ a-b-r-h-i-m kh-a-n(ابراهيم خان)。

¹⁵ 書き出しの部分および第一段落に関しては、筆者にアラビア語の知識がないため訳出していない。

帝国を治めて 50 年が経つが、悪評一つ聞かれない
汚点一つなく、公正に国を統治し、すべて安寧に人民を治める
神の世界を分け与えられ、その威光は朝な夕なすべての闇を照らす
ペラクではロー卿が理事官に任じられ、マレー人の王に助言が与えられる
国を統治する慣習を知らしめ、いくつもの助言が与えられ、法秩序が与えられ、日々を守る
すべての王族、有力者、首長、民に法が導入され、すべての土地を治める
女王の権威は増し、ものはあふれ、多くの人々が日々快適に暮らしている
我々全ての民にご慈悲を、誤りがあればお許してください

すべてのペラク人民は、1887 年 6 月 27 日、盛大な宴を催しペラク理事官ロー卿に贈り、祈りをヴィクトリア女王へささげます。

ペラクのすべての人民は、これまで通りの治世が続くことを願っております。

Mohamed Ali が詩を読み

すべての民が依頼して Che Mat と Abdullah に行かせました

Ibrahim Khan がこの仕事を助け、確認しました

あまりうまい手紙ではありませんが、お許してください

来世が平和でありますように

誤りがあればお許してください

1877 年 6 月 27 日

III. 東南スラウェシ、ブトン・スルタン国の文書: 『アブドゥル・ムルク・ザハリ・コレクション』から

山口裕子(一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程)

1. はじめに

インドネシアのスラウェシ島東南部に浮かぶブトン島。この島を中心に14世紀初頭におこったブトン(ウォリオ)王国は、16世紀にイスラーム化し、ブトン(ウォリオ)・スルタン国となった後 1960 年まで存続した。今日のブトン島には、スルタン国時代の多数の文書が現存する。それらの多くは、最後のスルタン、ファリヒ(Falihi:在 1937 - 60)の秘書官を務めたアブドゥル・ムルク・ザハリ(Abdul Mulku Zahari)らの蔵書(以下『ザハリ・コレクション』)である。本稿は、『ザハリ・コレクション』の全体的特徴について簡単に述べた後で、とくにブトン・スルタン国の支配層の言語、ウォリオ語の文書について紹介する。

2. アブドゥル・ムルク・ザハリ・コレクション

『ザハリ・コレクション』に収蔵される文書の総数は約 349 点にのぼる。使用言語および表記方法はアラビア語、アルファベット表記によるムラユ語(インドネシア語)、ジャウィ・ムラユ、ウォリオ語、オランダ語などである。内容的には言語、イスラーム、歴史、書簡、ヒカヤット、系譜、法律、予言書、治療、儀礼・慣習などに分類され

る。『ザハリ・コレクション』の概要は『上智アジア学』第 20 号 2002 年ですでに紹介されている。そこで、重複を避けながら、ここでは使用言語と表記法、内容、作成年代の間関係性に着目して全文書を整理してみた。それがグラフ 1、2、3 である。

ここから見てとれる諸特徴は次のとおりである。『ザハリ・コレクション』を年代別にみると、最古の文書は 17 世紀のもので 5 点ある。内容は言語、イスラーム、歴史、書簡などであり、いずれもジャウィ・ムラユが使用されている。それ以降 18 世紀は 28 点、19 世紀は 186 点、20 世紀には 122 点の文書が作成されている。

内容別では、イスラーム関係の文書がもっとも多く、125 点で 4 割をしめる。ついで書簡 98 点、法律文書 29 点、系譜、預言書、治療、慣習・儀礼に関するものが各 13 点ずつなどとなっている。イスラーム関係の文書 125 点のうち、4 分の 3 を超える 94 点が 19 世紀に作成されている。これは、第 29 代スルタン・ムハマド・イドゥルス (Sultan Muh. Idrus: 在 1824 - 51) が、イスラーム教育を重視し、イスラーム文書の執筆と写本を奨励したことに関係すると思われる。

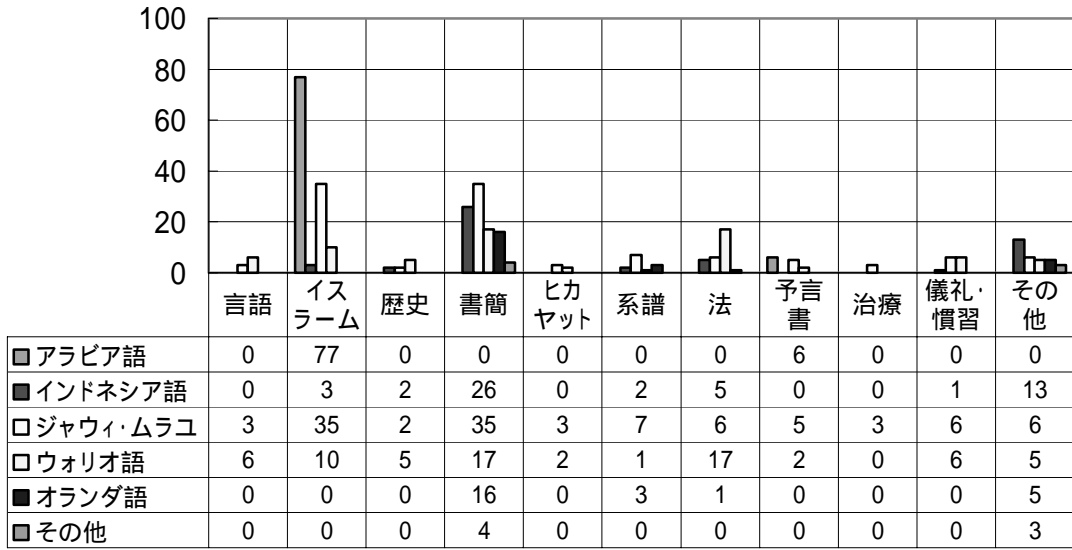
使用言語は、ジャウィ・ムラユがもっとも多い 111 点、アラビア語 83 点、ウォリオ語 71 点、インドネシア語 52 点、オランダ語 25 点である。18 - 9 世紀においては、ジャウィ・ムラユやアラビア語を用いたイスラーム関係の文書や書簡が多いが、20 世紀になるとオランダ語やインドネシア語による文書が多数みられるようになる。これらはスルタン国とオランダ植民地政府や日本行政官との間でかわされた書簡などである。また 19 世紀から 20 世紀には、スルタン国の内政にかかわる法律文などの多くが、次に紹介するウォリオ語で書かれるなどの特徴が見てとれる。

3. ウォリオ語文書

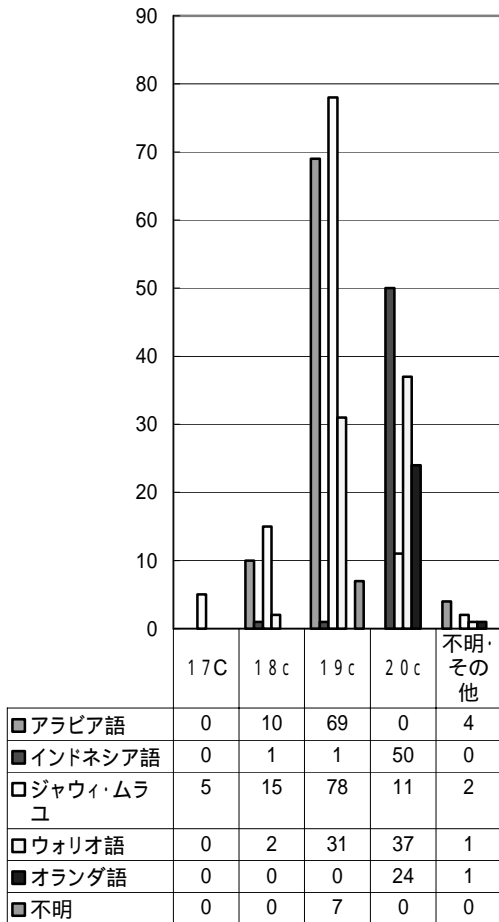
ウォリオ語は、オーストロネシア語族、西部オーストロネシア語派の東南セレベス諸語に属する。プトン・スルタン国の支配層によって統治と日常会話のために用いられた言語であり、現在のプトン島では、主に旧王宮とその周辺で使用されている。上述のとおり、『ザハリ・コレクション』のウォリオ語文書は、71 点を数える。そのうち 4 点はローマ字表記によるもので、内容は、法律、儀礼・慣習、イスラームなどである。制作年代は 19 世紀および 20 世紀といわれるが、内容的にみて、より古い時代にウォリオ文字で書かれたものをローマ字転写したと推測されるものもある。残る 67 点はアラビア文字に改良を施したウォリオ文字 (ウォリオ語で *Buri Wolio* = "ウォリオの書き方") の文書である。ウォリオ文字は、年代によって若干の相違が観察されるものの、おおそジャウィ・ムラユで使用される 36 文字からなり、それに母音 [a][i][u] をあらず補助記号シャクルと、さらに "v" の字に似た補助記号を母音 [e] のときは文字の上に、[o] のときは下に付加して表記する。プトン・スルタン国の支配層は通常アラビア語の素養があり、その読み書きではシャクルを使用しないにもかかわらず、プトン文字の殆どの文書には母音の補助記号が使用されている点が興味深い。

ウォリオ文字によるウォリオ語の筆記の始まりは、少なくとも 16 世紀のイスラーム伝来以降と推測されるが、正確なことはわかっていない。グラフ 4 が示すとおり、『ザハリ・コレクション』における最古のウォリオ語文書は 18 世紀に書かれた 2 作品であり、内容はそれぞれ「よい伴侶を得るための 3 つの条件について」、「死を前にした心構え」である。一方最も多いのは、19 世紀の法律関係の文書 13 点であり、具体的には税制、政府、遺産相続、防衛などスルタン国内の諸般の取り決めに関するものである。他の言語の文書と比較しても、法律文はウォリオ語によるものももっとも多い。書簡も 19 世紀と 20 世紀にウォリオ語で多く書かれている。その内訳は、スルタン国のウォリオ人高官の間で交わされた公的 / 私的な書簡、およびオランダ植民地政府との条約文を、スルタン国の保存用にウォリオ語に訳したものなどである。その他には、アラビア語のアル・クルアーン読解のた

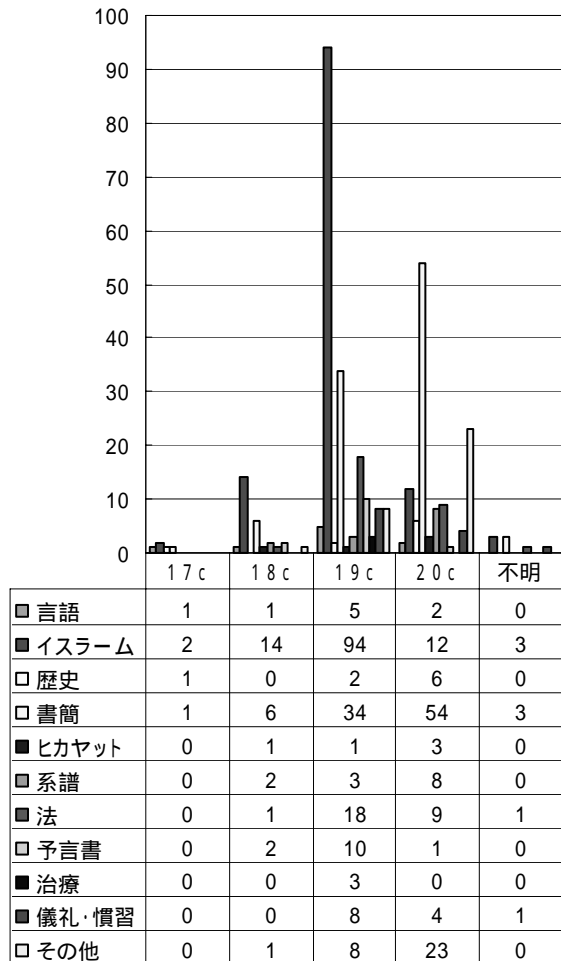
グラフ1: 『ザハリ・コレクション』言語・内容別データ



グラフ2: 『ザハリ・コレクション』言語・年代別データ

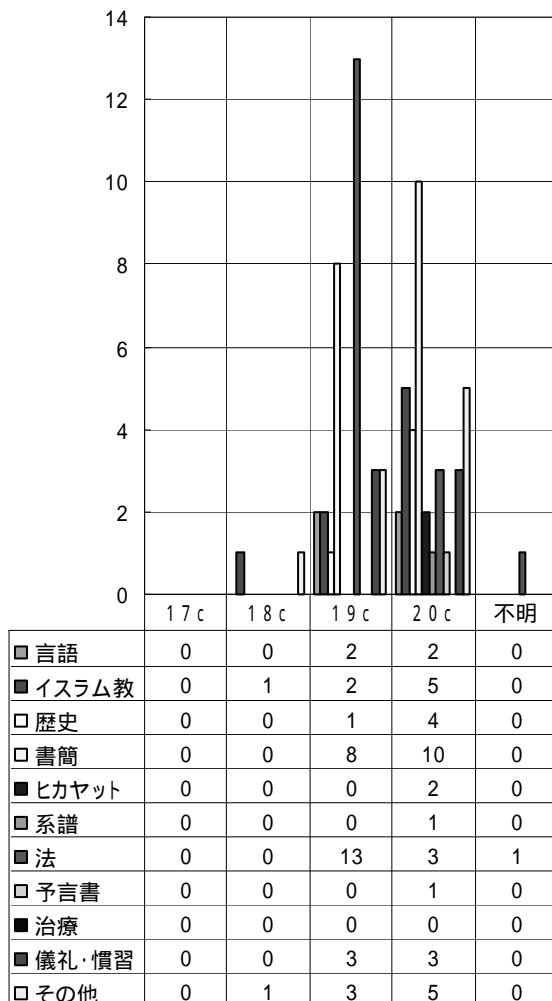


グラフ3: 『ザハリ・コレクション』内容・年代別データ



出所: 『ザハリ・コレクション』から筆者作成

グラフ4: ウォリオ語文書年代・内容別データ



出所: 『ザハリ・コレクション』から筆者作成

4. 今後の課題

以上、『ザハリ・コレクション』に収蔵されている文書を内容、作成年代、使用言語などの側面から概観してきた。ブトン・スルタン国の文書は数量的にも内容的にも非常に豊かである。これまでのところ、文書の内容を史料として部分的に援用した歴史研究はインドネシア内外にいくつかあるが、表記方法などについての研究は少ない。特にウォリオ文字の文書に関しては、インドネシア人研究者によってカバンティの内容などについての研究がいくつかあるのみである。今後においては、内容はもちろんのこと、広義の「ジャウィ」文書としてのウォリオ語文書という観点から、他のジャウィ文書とのつづり方についての比較研究や、使用される単語やつづり方の移り変わりについての通時的な考察などが課題としてのこされる。また、筆記具の素材に着目することも、文書が書かれた年代を特定したり、素材や文書そのものの流通過程を知るために有効となるだろう。

現在『ザハリ・コレクション』の蔵書の原本は、ザハリの子息、アル・ムジャジ (Al Mujazi) 氏が父親の遺志を引き継ぎ旧王宮近くの自宅で管理している。しかし気候条件や経済的制約のため文書の保存状態は非常に悪く、多くは害虫や湿気による害をうけ、氏の努力も空しく崩壊寸前もしくはすでに崩壊してしまったものも少なくない。文書はすでにマイクロフィルム化され、ジャカルタの国立文書館に収蔵されているが、それとは別に、原本の劣化を食い止める手立てや、レプリカ作成などの策を講じることが急務となる。

めの解説書や、慣習的諸儀礼に関する文書の多くはウォリオ語を使用している。また、「歴史」や「ヒカヤット」に分類されている文書の中には、古い伝承や物語を20世紀になってアブドゥル・ムルク・ザハリ自身がウォリオ語で転写したものもある。

この他に通常ウォリオ語とウォリオ文字が使用される文書に、伝統的散文、カバンティ (*khabant*) がある。カバンティは本来口頭による即興詩を意味し、ウォリオ文字によって筆記されるようになるのは18世紀ごろからといわれている。内容は、航海術、生活哲学、日常的な出来事など多岐にわたる。本節の最後に、18世紀の著名なカバンティ作家、ハジ・アブドゥル・ガニユ (Hj. Abdul Ganiyu) の原作といわれるカバンティ、“*Ajonga Inda Malusa* (=色あせない衣服)”の一部を紹介したい。“*Ajonga Inda Malusa*”の原本は現存していないため、ここではアブドゥル・ムルク・ザハリによる1974年の写本を使用する。図1は冒頭の決まり文句の一節である。なおここでは、カバンティの内容や、ウォリオ文字のつづり方の特徴などに踏み込んで考察をする用意はなく、ローマ字で転写したものと和訳を記すにとどめたい。

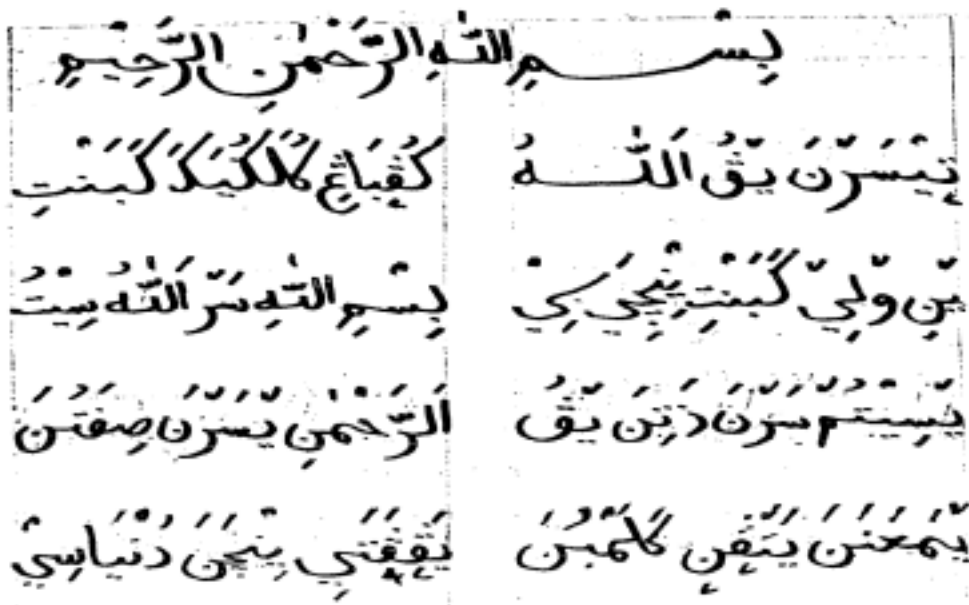


図1 : Ajonga inda malusa の冒頭部分 [Abdul Mulku Zahari:1974 *Ajonga Inda Malusa*]

(アルファベット転写)

Bismillaahir rakhmaanir rakhiym
Tee sarona opu allahu,
Kupebaangi kulaguaka kabanti.
Oni Wolio kabanti incia siy,
Bismil laahir saro Allaahu siytu,
O siytumo sarona zatina opu.
Alrkhamani osarona sifatuna,
Omaanana atopene kalambuna,
Apepatai incana dunia siy.

(和訳)

ビスミラーヒー ラフマニ ラヒム
アラーの名において
私は詩(カバンティ)を詠む。
このウォリオ語の詩は
そのアラーの名において
それこそが神の要素である。
その性質はいわば賜物であり
つまり、より豊かに
この世界中に広がるのである。

参考文献

- Anceaux, J.C. 1987. *Wolio Dictionary*. Leiden: Koninklik Instituut voor Taal-, Land- en Volkenkunde.
- Ikram, Achadiati. 2000. *Istiadat Tanah Negeri Butun: Edisi Teks dan Komentar*. Jakarta: Departemen Pendidikan Nasional.
- Ikram, Achadiati 他編. 2001. *Katalog Naskah Butun: Koleksi Abdul Mulku Zahari*. Jakarta: Yayasan Obor Indonesia.
- La Niampe. 1999. *Nasihat Haji Abdul Ganiu Kepada Sultan La Ode Muhammad Idrus Qaimuddin* (Makalah Imposium Internasional Pernaskahan Nusantara III), Jakarta.
- Zahari, Abdul Mulku. 1974. *Ajonga Inda Malusa*.
- Zuhdi, Susanto. 1999. *Labu Wana Labu Rope: Sejarah Butun Abad XVII-XVIII*. Universitas Indonesia, Jakarta.

(博士論文)

『上智アジア学』第20号. 2002年.

IV. ダルワン文書に使用された紙に関する研究

Teguh Sehanuddin (吉備国際大学 文化財修復国際協力学科在学)

1. はじめに

この調査書はダルワン(Daluang)文書に関する論文、テキスト、インターネット、他のメディア情報などの報告データをもとに、より詳しい情報を求めて地域住民への聞き取り調査を行って完成させたものである。

筆者はペーパー・コンサバター(紙修復家)である坂本勇先生から、ダルワン文書の存在を教えられた。先生は1995年、偶然ジャカルタのスラバヤ通りにある古本屋でダルワン文書に出会い、その時からダルワンに興味を持ち、調査研究を始めていた。2000年の11月頃私は坂本先生らの研究グループに参加し、西ジャワのガルットにおいてダルワン製作法の調査を行った。同時にインドネシア国立文書館、南スラウェシ文書館そして西ヌサトゥンガラ博物館などまで足を伸ばしダルワン文書の調査を行った。

ダルワン文書の研究目的は、各地域のダルワンの素材、ダルワン製作技術および道具を調べ、それによりそれぞれのダルワンが持っている素材、技法、生産地域の特徴を比較同定することである。文献調査から得た情報をもとに、ダルワン生産地と思われるジャワとマドゥラに今回出向きダルワンに詳しい人物に聞き取り調査をした。今回の調査期間は一ヶ月間と短く、交通機関の問題も重なり十分な調査を行えなかったが、ダルワンにはたくさんの解明されていない部分があり、今後の継続的な調査が必要なことがわかった。

このたび調査に協力してくれた方々、特に坂本先生には精神的、経済的に大きな援助をいただき心からの感謝を申し上げます。この調査報告は不足部分が多くまだ充分ではないが、この調査報告を通じてインドネシアにすばらしい文化財が存在することを認識していただき、その保護に関心を持っていただくことを願っている。

2. ダルワンの名称とその特徴

紙研究者のレネ・テーゲレルは1995年にオランダで出版された *Dluwang, Van Bast Tot Boek* において、ダルワンという単語が「9世紀に書かれたラマヤナ物語に3ヶ所、そして11～12世紀のクディリ王朝時代の3つの文書 *Sumanasantaka*、*Bhomakawya*、*Ramawijaya* にも見られた」と書いている。また「古いジャワの文学書にダルワンがジャワ人の衣服として使われたと記されている」とも書いている。

グード・ハンターはダルワン書支体のことを「ジャワの Bark Paper」と呼んでいる。インドネシア以外の国の文献にはダルワンの名称が Javanese Paper や Ponorogo Paper と書かれているが、インドネシアでは地域により言語が異なるためさまざまな呼称があり、スダでは saeh または daluang、ジャワでは dluwang、jeluwang、gendhong、gedhog、dlancang、kertas tela、マドゥラでは delubeng、kertas kaju、kertas kapas などの言葉がある。ジャワの言語で一般人が使う呼称は dluwang と gendhong である。

ジャワでの名称である kertas tela の tela とはタピオカの意である。このことはダルワンの茶色に似た色を持つタピオカをダルワン製作のある段階で使用したのかもしれない。しかし、これについては調査中でまだはっきりわかっていない。

ダルワンの原料は日本ではコウゾ属のカジノキ (*Broussonetia papyrifera* Vent.) として知られている。製作方法はカジノキの白皮部分を、発酵処理をおこなったり叩き伸ばしたりして、薄くシート状にしたものである。ダルワンは用途によって2つに分類される。1つめはタバと同様生活用品として衣服などに用いられる。2つめはダルワンを書支体(文書や絵の支持体)として使えるようにしたものの意味で使う。

また、ダルワン書支体は、パーチメント(羊皮紙)やパピルスと混同されやすい。しかし繊維分析の結果、

異なるものであると判明した。ここでのダルワン書支体はカジノキの樹皮を文書や絵に使えるようにしたものの意味で使う。普通の洋紙がダルワンと呼ばれることも少なくないがここでの名称はその立場とは異なる。

ダルワンは手作りがゆえに洋紙と比較すれば次のような特徴がある。見た目の色は薄い黄土色から濃い黄土色までがあり、洋紙のような真っ白いものは存在しないと推測される。手ざわりは粗いものから細かいものまで幅広く、もっとも重要な点は必ず厚みにムラがあるところである。光を透かして見るとそのムラが確認できる。樹皮を叩いて作るために繊維と繊維がくっついたり、迫ったり広がったりと一定していない。また、一冊の本の中には一枚一枚の大きさがそろっていない場合が多い。このことは中世ヨーロッパの写本にもよく見られることである。

ダルワンのなかでもっとも品質的に良いものは日本の打ち紙のように透明度や密度が高い。そして表面が滑らかで耐水性を持つためにインクが滲まずきれいに書くことができる。またそのようなダルワンは何重にも繊維を重ね合わせ圧縮しさらに発酵させるため繊維の絡み合う強度が強い。

3. ダルワンの原料

カジノキはタパやダルワンの素材としてよく知られている。カジノキはインドネシアの西はスマトラ島、スラウエシ島から東はセラム島まで広く発見された。インドネシアではカジノキの呼び名はそれぞれの地域で異なる。インドネシア語ではセプカウ(Sepukau)と呼ばれており、南スマトラ島のパセマー地の呼名である。スンダ地域ではサエー(Saeh)と呼ばれ、ジャワではガルグ(Galugu)、マドゥラ島ではダルバン(Dhalubang/ Dhelubeng)、東スンバではケンバラ(Kembala)、西スンバではロワ(Rowa)、中部スラウエシのパレー族ではアンボ(Ambo)とバンガイ族ではリンゴラス(Lingowas)、セラム島ではマラク(Malak)である。

カジノキは中国からタパ文化と一緒に世界に広がったと報告されている。しかし、インドネシアでは多くの地域で生息しているため中国から来たのではないという可能性もある。

4. 東南アジアへの紙の伝来

紙は2世紀の中国で蔡倫により発明されたといわれている。ダード・ハンター(Dard Hunter)によると、中国で発明された紙は、東は朝鮮半島を経て日本へ伝えられ、西は715年、唐とイスラム帝国が戦った時、捕虜になった中国人によってサマルカンドに伝えられ、さらに中近東からアフリカ大陸の地中海沿岸を通して12世紀にヨーロッパへ伝えられた。16世紀までにほぼヨーロッパ全域に広まり、17世紀にアメリカに伝わったということがわかっている。

しかし東南アジアへはどのように伝わったかまだわかっていない。そのため東南アジアルートにおける紙の伝来の歴史もこの調査研究目的の1つである。

インドネシアでは7-14世紀に栄えたスリウィジャヤ王国(現在の南スマトラにあった王国)は中国やベトナムと貿易を行っていた。また多くの中国の僧侶が仏教の経典を書写するためにスリウィジャヤ王国に来ていたことがわかっている。またオランダ東インド会社に勤めていたワン・ダハイは手記の中で「16世紀の終わり頃にはジャワでは多くの中国人と中国紙が存在していた」と書いている。

紙は中国からベトナムに渡り、すでに4世紀のベトナムでは紙が生産されていたようである。このことからインドネシアにも中国紙が伝わってきたことは推測できるが、紙漉きの技法が伝わったかどうかはわかっていない。少なくとも現在のインドネシアには紙漉きの技法は残っていない。

5. チャム(Cham)族の住む地域で発見されたダルワン

ベトナムの少数民族であるチャム族は 2 - 17 世紀に栄えたチャンパ王国の子孫である。チャム族の信仰はイスラム教かヒンズー教である。イスラム教を信仰しているのはチャムバニ族である。彼らが住む地域で 1 冊のダルワン書支体を使用したと思われるコーランが坂本先生らにより発見され、繊維分析の結果その原料はカジノキだと判明した。一枚のダルワン紙に薄い和紙のような紙を両面に貼りつけ、薄い和紙のような紙の強化のために使われているように思われた。文字は筆ではなくペンのようなもので書かれてあった。またそのダルワン書支体の表面は字を書くのが困難と思えるほど荒れていた。このような荒いダルワン書支体はジャワでは製本の表紙などに使われている。

このコーランは 3 世代前からのものだと伝えられている。チャム族研究者のポー・ダルマは、「チャムバニ族はマレー語とジャワ語が書かれたイスラム教の経典を使用しており、そのためかイスラム教を学びにジャワにわたった人もいる」と報告している。チャムバニ族に伝わるダルワン書支体で作られたコーランは、両地域の宗教的なつながりから見て、ジャワからチャムバニ族に伝わったのではないかと推測される。

6. ダルワンとイスラム文化

ジャワでのイスラム教は 14 世紀後半から 9 人の聖者によって広められたと伝承されている。現在、オランダのライデン博物館に保管されているもっとも古いジャワ語文書の一つである「Wejangan Seh Bari」は、9 聖者の 1 人スナン・ボナン聖者によって書かれた。スナン・ボナン聖者は 1465 年生まれで文学者としても知られている。この文書は現存するもっとも古いダルワン文書で、16 世紀後半、ジャワのセダユに上陸したオランダ人航海者ブルカニクス氏によって発見された。これまで一般的に *Lontar*(ヤシの葉)と言われるがイスラム哲学者シム教授(Prof. Dr. Simuh)により、「Pengaruh Islam Terhadap Budaya Jawa, 31 Nopember 2000」のインドネシア国立図書館に行われたセミナーにおいてこの文書は東ジャワのトゥバンで書かれたダルワンと発表されている。そして、1916 年にオランダの B. Schrieke により *Het Boek Van Bonang* という博士論文に転写された。そして 1969 年に Drewes により *The Admonition of Seh Bari* という英論文に転写された。

ジャワではイスラム教以前は、アニミズムまたはヒンズー教を信仰していた。ヒンズー教の最盛期はマジャパヒット王朝時代であり、その時代、文書の素材としてヤシの葉が多く使用されていた。またその王朝時代のヒンズー教ではヤシの葉を神聖なものとして捉えていた。しかしイスラム教が入り同時にコーランが必要になりはじめると、文書の素材がヤシの葉からダルワン書支体が変わっていった。その理由としては、ヤシの葉は弱く折れやすいためアラビア文字が書きにくく、またヤシの葉は一枚一枚が小さく一冊のコーランをまとめると分厚くなりすぎるのが考えられる。宗教上の理由としては、イスラム教において重要なコーランにはヤシの葉よりふさわしい書支体が必要だったこと、またコーラン以外のイスラム経典を書くために、大量の素材が必要とされ、そのためにその当時すでに存在していたと考えられるダルワン書支体が素材として採用されたことが推測される。さらに、ダルワン書支体の製作法が広まった背景には、イスラムの布教と同時にダルワン書支体の製作法も教えられた可能性があるかと推測される。

ダルワンは書写材としてイスラム教の発展にともない、主にコーラン(Qur'an)に使用されており、さまざまな宗教の宣伝メディアとして多く書かれてあり現在でも見る事ができる。ダルワンが文書として盛んだったのは 16 世紀 ~ 19 世紀の終わりごろまでである。一般のコレクター以外イスラム教学習センター(Pesantren)から多くのダルワン文書が発見された。

7. 西洋紙の導入とダルワン

西洋紙は16世紀、オランダを通してインドネシアに輸入された。しかし、当時西洋紙は宮廷関係者やオランダ政府関係者のために使用され一般には使われることが少なかった。1918年、第1次世界大戦によりオランダから西洋紙の輸入が途切れたため1922年にバンドゥンのパダラランでNV Papier Fabriek Padalarangという紙工場が建てられた。1939年に東ジャワで新たに紙工場が建てられ、安くて白い紙が手に入るようになったために東ジャワのダルワン書支体の生産は減少した。

このように西洋紙の導入で使用が減ったダルワンであるが、西洋紙と比べて決して劣った素材ではなく、むしろ西洋紙に比べ丈夫で破れにくいという特長をもつ。19世紀のダルワン文書は博物館や図書館や収集家たちによりきちんと保存され続けている。しかし同じ時代の西洋紙は劣化が激しい。またインク焼けも起きているがダルワン書支体では起こりにくい。

8. インドネシアの伝統的なインク

インドネシアの伝統的な筆記用具としては鳥の羽やヤシの葉や竹が使われた。一方、伝統的なインクについても、今回の調査でその材料や製作方法が地域により違うことがわかった。

ポノロゴではきれいに濾過したススをマメ科のクランピス(*Acacia tomentosa* Roxb.)の樹液と混ぜ合わせ黒インクを作る。また赤インクには、ジャバロンという赤色の油のようなものやツルムラサキ科のガンドウラ(*Basella rubra* Linn.)の葉から取った赤い染料も使用する。

西ジャワのジャンプディバ、ワルンコンダン、チアンジュルには今でも使われているマンシゲントゥールといわれる黒インクがある。製作方法は小さな缶で作った灯油ランプを燃やし、煙を大きな缶で受けてススを取る。そしてフライパンに白いもち米とお湯を入れ黒い糊のようになるまで煮る。それに先ほどのススとかき混ぜて布で濾過したものを乾燥させると液体の黒インクができる。型に流し込んで乾燥させると固体のインクになる。これと同じものをガルットではススを燃やした藁の煙から作っていた。

9. ダルワン書支体の分類

ジャワでの関係者への聞き取り調査の結果、ダルワン書支体を品質別に分けそれぞれ名称をかえて使っていることがわかった。

表面がつるつるしているのを *kertas tela*、表面が少しざらざらしているのを *d lancang* または *gendhong*、表面が粗いのを *d luwang* と3タイプに区別している。

ダード・ハンターはその著書 *Primitive Paper Making* の中で「1900年代の時点でダルワン紙支体は大きく分けて3つの地域で生産されていた」と書いている。1ヶ所目は、マドゥラ島のアンブンテンとワルで、ここで作られるダルワンは最も滑らかである。次は東ジャワのポノロゴで良い品質である。3ヶ所目は西ジャワのガルットでダルアワン書支体の表面は粗っぽく見える。

レネ・テーゲールは、ダルアワン書支体を特別な文書に使うもの、地方政府行政書やテキストや製本材料などに使うもの、タバコの葉を包んだり封筒などに使うものと、用途別に3つに分類した。

10. ダルワン文書の製本

今までに発見されたダルワン文書のほとんどは糸を利用して綴じている。いくつかの綴じ方があるが、一例として和本の製本方式の一つである列帖装(Multisection Book)と呼ばれる技法のものもあった。

ダルワン文書の製本とはいえないが、洋紙の文書のなかに本の強度を高めるためにダルワン紙を利用し

ているものもみられた。糸で綴じるところに幅 2cm 程のダルワン紙を置いてそこを綴じている。

11. 巻物に使われたダルワン

これまでダルワン書支体の巻物はワヤン・ベベルという絵巻物語が描かれてある絵巻物しか発見されていなかった。しかし今回の調査でダルワン書支体に文字が書かれた巻物を 2 つの地域で 1 本ずつあわせて 2 本発見した。

内容は 2 本ともアラビア文字で書かれたイスラム教の教えである。西ジャワのガルットで発見した巻物は、横 164cm、縦 23cm の細長いものである。マドゥラのスムヌップの巻物は横 170cm、縦 25cm とガルットのものとはほぼ同じサイズある。2 本とも継ぎ目が無いことが確認された。劣化の進行は、ガルットのものは進んでいて破れたり穴があいたりしているが、マドゥラのは破れなどはそれほどひどくない。繊維分析の結果、いずれもカジノキから作られたものと分かった。

ダルワン書支体のなかで最大の大きさを持つものは絵巻物ワヤン・ベベルである。現在インドネシアに残されているワヤン・ベベルはわずか数組である。平均的な寸法は横約 400cm 縦約 70cm である。

1 セットは 9 枚 1 組で Wayang Beber Kyai Remeng と呼ばれている。グヌンキドゥルのゲラランに 17 代目のスキヨ氏によって箱に入れて保存されている。パンジ物語を中心に 11 世紀のジュンガラ王国から生まれた話が描かれている。劣化状況としては、絵の飾りとして金箔を貼った部分が鋭利なもので穴が開けられていることがあげられる。

別のセットは 6 枚 1 組で Wayang Beber Pacitan と呼ばれ、マタラム王朝の滅亡を描いたジョコクンバンクニンの物語である。パチタンのカラントルンにある民家で縦 18cm、横 138cm、高さ 30cm の箱に保存されている。劣化は上演のたびに進んだようで、汚れ、ひび割れ、破れなどが一枚一枚にたくさん見られる。破れた個所に同色紙で修理をしている。しかし、修理にあまり適さない紙や糊を使っているためそこからさらに劣化が進んでいる。

ジャワの古文書 *Kitab Centini* には、「ワヤンは 10 世紀頃マメナン王朝で生まれ、ヤシの葉に描いた」と書かれている。また 1930 年ソロのアロヨクスモ・ディロゴ王が書いた *Sastro Mirudo* のなかにワヤン・ベベルの歴史とダルワンの文字が見られる。そこには「11 世紀のジェンガラ王朝時代の王がブジャジャラン国を移す時ワヤン・ベベルが生まれダルワンが書支体として使用された。このように 11～12 世紀にはダルワンが書支体に使われていた」と書かれてある。

文書をワヤン・ベベルと比べてみた場合、書支体の厚みと表面の滑らかさがある。これまで文書、ワヤン・ベベル、タパを別のもので研究がされたがしかし両方とも類似点が多く、このことから文書はダルワンをもとに書支体としてタパやワヤン・ベベルから変化し書きやすくなっていったのではないかと推測している。

12. ダルワン書支体の技法

現在、ダルワン書支体を製作している家族が西ジャワのガルットに 2 軒ある。次に示す製作手順はそのうちの一軒である Maman 氏にうかがったものである。氏によると、サエ(ダルワンのスダ語名)は原料の植物が少ないために、一日に 40cm×50cm の大きさで 14 枚程度しか作るができない。

ダルワン紙を作る道具には、鋸、ナイフ、ハンマー、台、バナナの葉、ビニール袋、バナナの木を使用する。

- 鋸はカジノキを伐採し切り倒すために使う。
- ナイフはカジノキの白皮を手でむく前にナイフで外皮に切り目を入れ削り取るために使う。

- ハンマーは白皮を叩いて伸ばすために使う。このハンマーは長さ約 10cm 幅約 4cm の型に流し込んで作った金属製である。ハンマーには使用目的の異なる 2 つの種類がある。白皮を伸ばすために 11 個の溝をつけた目の粗いハンマーと、滑らかにするために 21 個の溝をつけた目の細かいハンマーである。
- 台は白皮を叩いて伸ばす時の台であり、材質が硬く滑らかで樹液の少ないジャックフルーツ (*Artocarpus integra*) から作られたものである。
- パナナの葉は出来上がったダルワン紙を包み込んで発酵させるために使う。
- ビニール袋はダルワン紙を包んだパナナの葉をこのなかに入れて発酵をより進めるために使う。
- パナナの木はダルワンをパナナの木肌にはりつけるために使う。

製作手順は以下の通りである。

高さ 5m ~ 6m、円周が大人の手首程度のカジノキの木を選び鋸で切り取る。

伐採したカジノキの樹皮を剥がしやすくするため約 50cm に切りわけ。

樹皮を剥がし、次に樹皮から外皮をナイフで削りとり白皮だけにする。そのさい水で洗いながら外皮が残っていないか確認しながら作業を行う。

いったん白皮を水につけ、濡れたまま台の上に置き目の粗いハンマーで叩き伸ばす。ある程度の大きさになると次は目の細かいハンマーで叩き伸ばして整える。

再び水につけ太陽光で乾燥させる。天気の良い日だと 2 時間で乾燥が終わる。

乾燥させた後、もう一度水につけ軽く絞る。それをパナナの葉に包みビニール袋に入れる。日のあたらない場所に置き、約一週間発酵させる。

一週間経って取り出したものには粘液が付着している。それをパナナの木肌にはりつけ、指やヤシの実の硬い皮や厚い葉を使って取り除き、同時に磨いて、そのまま乾燥させる。

乾燥したものをはがして A4 判ほどの大きさに切り揃えて完成。

また、現在は活動していないが、1960 年代まで実際にダルワン製作を行っていたマルスディ氏(64 歳)という人が東ジャワのポノロゴに在住している。氏は幼い頃に両親からダルワン製作法を学び 1960 年代までダルワン書支体を作っていた。

氏に話を尋ねると、ハンマーはガルットのものに似ている事がわかった。しかし製作法は以下に記すように若干の違いが見られた。

カジノキはガルットでは 1 年半のものを使うがポノロゴでは 1 年以内のものを使う。

白皮を叩き伸ばす前に約 1 週間水の中につけて柔らかくする。

酵母をかけてからパナナの葉に包み込む。

ガルットでは約 1 週間の発酵期間がポノロゴでは 10 日間である。

発酵が済んだものを再び目の細かいハンマーで薄く滑らかになるように叩いて伸ばす。その際粘液も取り除きパナナの木肌では乾燥させるだけ。

乾燥したものを台の上に置きクワックと呼ばれる握りこぶし大の貝殻の背部分で両面を丁寧に磨く。

ガード・ハンターはその著書 *Primitive Paper Making* で、東ジャワ以東のダルワン製作法を次のように記している。ダルワン文書の原料に適すのは 7 ヶ月 ~ 12 ヶ月のカジノキで高さ約 3m、円周約 10cm のものである。カジノキから白皮を取り出しそれを蒸してから乾燥させる。それを水につけ水分を含ましてから叩き伸ばす。叩き伸ばしたものを太陽光で乾燥させる。乾燥させたものをまた水につけてから 2、3 枚に重ね互いの繊維が絡み合うまで叩き伸ばす。叩き伸ばしたものを半分に折り、次にそれを 3 等分になるように折りこむ。こうして広げると

6個の四角形ができる。折りこんだものを叩き伸ばし、それを再度半分に折り叩き伸ばす。発酵のためにバナナの葉に包んでバケールとよばれる木の器に入れて密封し日の当たらない場所に置く。発酵期間の長短で品質の良いもの普通のものを作り分ける。良いものは8日～10日間、普通のは2、3日間、バナナの木肌にはりつけ、ゴムの木やジャックフルーツの木の葉で粘液を取り除き、同時に磨いて乾燥させる。発酵期間が2、3日間のものはこの時点で完成だが、発酵期間が8日～10日間のものは貝殻の背部分で両面を磨き滑らかに仕上げる。その作業を行うことにより書き味が良くなる。

これらから、ポノゴで作られたダルワン書支体とガルットで作られたダルワン書支体の違いを見分ける方法として、書支体表面の滑らかさの違いから判別できるのではないかと予想される。

13. 一般家庭にあるダルワン文書の取り扱い方

ダルワン紙に書かれたコーランは、伝統的な考えを持つジャワ人にとって家族の幸福、安全や運を届けてくれるものだと信じられている。また祖先から伝わる神聖で処分することのできないものとして捉えられている。そのため決められた時にしか開けられなく、さらにその前に儀式を行う必要がある。それを破ると悪いことが起こると信じている。

いくつかの一般家庭では、ダルワン文書の保存法として、ほこりを取り除き、煙であぶり、棚のなかに収め、虫除けのナフタリン製剤を入れている。しかし多くの家庭ではそこまではしていない。

14. ダルワン文書の危機と問題点

インドネシアは多くの文化が存在している国である。しかし近代化の過程で伝統文化は必ずおろそかにされるという例にもれず、最近インドネシアも文化保存については多くの問題を抱えている。政府関係の文書館や国立図書館などでさえも、多くの文書が無くなったり行方不明になったりしていると報告されており、文書の存在自体が、無知識や無関心、個人の欲望のためだけに行動している人達によって危機に瀕している。さらに、ダルワン文書などの文書の素材の調査研究はわずかしかなされていない。その理由としては素材から得られる情報の価値についての認識が少ないことがあげられる。

インドネシアでは伝統的に文書の素材として使われていたものに、葉、竹、紙、樹皮などがあつた。そのうち樹皮にはプスタハとダルワンがある。プスタハは北スマトラのバタック族によって発明された、アリーム (*Aquilaria Malaccensis*) という木の樹皮を乾燥させたものである。

すでに述べたように、国内の政府機関および民間機関または海外の博物館や図書館においてダルワン文書は適切に保存されているのに対して、インドネシアの一般家庭にあるダルワン文書は、ほとんどが適切に保存されていないために劣化が進んでいる。それには、いくつかの原因が考えられる。まず、物理的な原因は、子供の練習ノートに使用するなどの不適切な取り扱いである。それによって、製本が弱い表紙が破れたり外れたりしている。また火災による被害もあるが、そのなかには信仰の問題がからんだり、所有者が亡くなったりすると故意に文書を燃やす場合も含まれる。

環境的な原因としては、熱帯地域特有の乾季と雨季の気温と湿度の問題がある。日光に当たりすぎているものは紙色が変化している。そのほかに洪水やほこりの問題も大きい。

生物的な原因としては虫食い、鼠の歯のあと、そして虫のフンによる被害がたくさん見られる。また、洪水にあつたため文字が読めなくなるほどカビが生えることも多い。

ダルワン製作技術の歴史はまだ明らかになっていないが、イスラムやオランダの貿易商人がアラビア、中国、ヨーロッパから紙をインドネシアに伝えるずっと以前から、ジャワではダルワンが文書の書写材として知られ

ていたようであり、大変に長い歴史をもつと考えられる。しかしながら、現在ダルワンの製法を知っている人たちはすでに 80 歳以上の高齢で、記憶力や健康がいつ衰えられてもおかしくない状況である。時期を失するとダルワン製作法の調査はきわめて困難になるであろう。このような観点からも、ダルワンに関する調査を今後も続けていく必要性は非常に高い。

参考文献

1. Ajip Rosidi, dkk, *Ensiklopedi Sunda*. Jakarta, Pustaka Jaya, 2000.
2. 坂本勇・テゲーセハヌディン・安田智子「アジアもう一つ紙の道 Daluang 調査 第一報」文化財保存修復学会第 25 回、2003 .
3. Edi S. Ekadjati, *Naskah Sunda: Inventarisasi dan pencatatan*. Kerjasama Lembaga Kebudayaan UNPAD dengan The Toyota Foundation, Bandung, 1983.
4. K. Heyne, *Tumbuhan Berguna di Indonesia II*. Badan Litbang Kehutanan, Jakarta, 1987.
5. Dard Hunter, *Primitive Paper Making*. Chillicothe, Ohio, 1927.
6. Dard Hunter, *Papermaking: The History and Technicque of Ancient Craft*. Dover Publication, Inc. New York, 1978.
7. Kojiro Ikegami, *Japanese Book Binding: Instruction from a Master Craftsman*. Weatherhill, New York and Tokyo, 1986.
8. Ann Kumar and John H. McGlynn, *Illuminations: The Writing Tradition of Indonesia*. The Lontar Foundation, Jakarta, Weatherhill, Inc, New York and Tokyo, 1996.
9. Prosea, *Plant Research of South East Asia: Plant Fiber*. Backhuys Publishers, Leiden, 2003.
10. Keith Rawlings, *Observation on the Historical Development of Puppetry*.
11. S. Haryanto, *Pratiwimba Adiluhung: Sejarah dan perkembangan Wayang*. Djambatan, 1988.
12. Sutini B.A, *Sejarah Perkembangan Kesenian Wayang*. <http://www.jawapalace.org/wayang2.html>
13. T. Permadi, *Mangsi Gentu dan Tinta Tulis Tradisional Sunda*.

V. インドネシア写本研究国際シンポジウムのお知らせ

菅原 由美

7月26日～28日に、ジャカルタで、東京外国語大 21 世紀 COE プログラム史資料ハブ地域文化研究拠点(C-DATS)、国立イスラーム大学(Universitas Islam Negeri Syarif Hidayatullah)及びインドネシア写本学会(Masyarakat Pernaskahan Nusantara:MANASSA)の共催で、インドネシアの写本に関する国際シンポジウムを開催することになりました。

MANASSA による国際シンポジウムは毎年インドネシア各地で開催されていますが、今年は例年と異なり、文献学者(philologist)のみによるシンポジウムではなく、様々なディシプリンの方々を国内外から呼び、手書き写本を利用した研究の比較検討をおこなう予定です。文献学、歴史学、文化人類学、宗教学、言語学、文学、

考古学、及びマルチメディアのセッションを組みます。今回は UIN との共催ということから、写本分析によるイスラーム研究の可能性についても、討論をする予定です。

現在のところ、発表を予定されているのは、海外からは、HenriChambert-Loir、Merle Ricklefs、James Fox、V.I.Braginsky、C.Guillot、Peter Riddell、インドネシアからは、Azyumardi Azra、Achadiati Ikram、Nabilah Lubis、Fuad Jabali、Harimurti Kridalaksana、Sapardi DjokoDamono、Hasan M Ambary 等の方々です。発表者として参加をご希望される方がいらっしゃいましたら、私の方に連絡をお願いいたします。傍聴参加も受け付けています。その場合は、下記英文案内にありますインドネシア側の連絡先に直接申し込んでいただいても、私にご連絡いただいても、どちらでも構いません。お名前、所属、住所、電話番号、Eメールアドレスとともに、参加希望の旨を、開催2週間前までにお知らせください。参加費は、宿泊代込みで30万ルピア(約4000円)、宿泊先をご自分で用意される場合は、15万ルピア(約2000円)です。支払いは、会場をお願いいたします。会場はジャカルタの UIN キャンパスで行います。スケジュールは現在調整中です。

菅原 由美 ysuga@sa.uno.ne.jp

東京外国語大学 21 世紀 COE プログラム 史資料ハブ地域文化研究拠点
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 TEL/FAX 042-330-5540

VI. 1993 年版ジャウィ正書法の字母表における変更点

マレーシアにおけるジャウィ文字の公式の正書法を規定している *Pedoman Ejaan Jawi yang Disempurnakan* は Dewan Bahasa dan Pustaka によって 1986 年に第 2 版が発行されたあと、第 3 版が 1993 年に発行された。第 3 版は基本的に第 2 版の微調整と言えるが、その内容はまだ『上智アジア学』第 20 号にも紹介されていないので、ここにその概要を示す。

第 2 版との大きな違いは、語末の曖昧母音 e を表す文字 ye が追加されたことである(例: nasionalisme)。この結果、字母表の文字数は 37 文字になった。さらに、第 2 版ではジャウィ独自の文字(6 文字)のうち 5 文字(ca、nga、pa、ga、nya)はアラビア語に起源する文字群(30 文字)のあとにまとめて配列されていたが(ただし、va だけは wau のあと)、第 3 版ではジャウィ独自の文字(ye を加えた 7 文字)のうち 5 文字についてはそれぞれ関連のあるアラビア語起源の文字のあと(ca は jim、nga は ghain、pa は fa、ga は kaf、va は今までどおり wau のあと)に配列されるようになった。ただし、ye は ya のあと、nya は ye のあとに配列されている。表 1 の字母表は、Ismail bin Dahaman and Manshoor bin Haji Ahmad, *Daftar Kata Bahasa Melayu: Rumi-Sebutan-Jawi, Jilid 1 A-K*, 2001 [Kuala Lumpur: Dewan Bahasa dan Pustaka], pp.71-72 をもとに西尾寛治氏が作成した字母表に若干の変更を加えたものである。なお、1993 年版とはことなっており、(1)アラビア語に起源をもつ文字、(2)アラビア語に起源をもつがアラビア語では単語の文字とされない文字、(3)ジャウィ独自の文字の 3 つのグループに分けてある。

表1 現在のジャウイの字母

(1) アラビア語に起源する文字

文字	名称	ローマ字表記
ا	alif	a
ب	ba	b
ت	ta	t
ة	ta marbutah	t/h
ث	sa	s, (th)
ج	jim	j
ح	ha	h
خ	kha	kh
د	dal	d
ذ	zal	z
ر	ra	r
ز	zai	z
س	sin	s
ش	syin	sy
ص	sad	s
ض	dad	d
ط	ta	t
ظ	za	z
ع	ain	語頭 a, i, u, 語尾 k, (‘)
غ	ghain	gh
ف	fa	f
ق	qaf	q, k
ك	kaf	k
ل	lam	l
م	mim	m
ن	nun	n
و	wau	w, u, o
ه	ha	h
ي	ya	y, i, e

(2) アラビア語では単独の文字とされない文字

文字	名称	ローマ字表記
ء	hamzah	k, (‘)

(3) ジャウイ独自の文字

文字	名称	ローマ字表記
چ	ca	c
غ	nga	ng
ف	pa	p
گ	ga	g
و	va	v
ی	ye	語尾の曖昧母音の e
ن	nya	ny

VII. 研究会記録

第 18 回研究会報告

日時: 2003 年 6 月 2 日(土) 13:00-18:00

場所: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所セミナー室(301)

出席者: 8 名

1. 事務連絡・情報交換

(1) 事務局よりニューズレター10号が6月2日付けでPDF版で発行されたことが報告された。しかしながら、PDF版のニューズレターを受け取った人の中から文字化けで読めなかったという指摘があり、事務局が再度配信を試みることが決まった。

(2) 事務局よりメーリングリスト内規案が提示された。あわせて、川島氏よりジャウィ文書研究会と別の組織がすでに採用しているメーリングリストの内規が参考として提示された。協議の結果、メーリングリスト参加者の規定を緩くする、警告・退会についての文言を穏やかなものにする、ウェブに転載するメーリングリストの記事の対象を明示するという3点の修正を経て、内規が承認された。

(3) 川島氏より、上智アジア学の規定では、執筆者以外に20部を無料で配布できていることになっているので、20名の配布先として望ましい20名の名前を出して欲しいとの提案があった。およそ15名ほどの名前がでたので、残りはメーリングリストで募ることにした。なお、同号は6月下旬に発行の予定である。

(4) 川島緑氏よりジャウィ入力用ワープロソフト(Windows95/98/2000対応)をトヨタ財団助成費で購入したことが報告された。1ライセンス・パックを20個、5ライセンス・パックを3個購入した。1ライセンスのソフトは研究会会員を中心に1個ずつ配布すること、5ライセンス・パックは川島氏が1個、事務局が2個もち、将来、必要とする者に配布することとなった。

(5) 東京外国語大学客員教授で、スダ文書の専門家であるエディ・エカジャティ教授(インドネシア、パジャジャラン大学)の紹介が菅原由美氏よりあり、エディ氏からスダ語文書の研究状況についての説明があり、論文数点のコピーをいただいた。引き続きエディ氏はテキスト講読にも参加された。

2. テキスト講読

Address of the Penang Mohammedans to the Queen on the Occasion of the Jubilee of Her Reign, June 1887. JSBRAS (1886) No.18, pp. 366-368. テキスト・翻字案提供: 西尾寛治。1887年のヴィクトリア女王即位50周年記念に際してペナンから送られた祝辞である。ペナン在住(ただし出自はペナン以外のマラッカ海峡世界を含む)のアラブ系の有力者たちによって起草された。テキストのジャウィ表記には不規則な点が見られるが、これが起草者の不注意なのか、原稿を印字した印刷業者のミスなのかは不明である。ムスリムが書いた文書でありながら、書き手が自称を *Muhammadiyah* (ムハンマドに従う者) とするのは、読み手であるイギリスの女王のムスリム理解を予想した上での自称であると思われる。商人と宗教者(*dagang santri*)の盛んな往来が国家の繁栄の徴表である認識は14世紀のジャワにおいても見られるものであり、島嶼世界の海域ネットワークへの依存をよく示しているように思われる。アラビア語や宮廷用語が多用された祝辞であるが、読んでみると興味深い点が多々あることがわかった。

3. 今後の活動

次の第19回研究会は、本日読んだテキストに続いて掲載されている文書を読むこと(Jubilee Address by

Perak ra'iyats, June, 1887. *JSBRAS* (1886) No.18, pp. 369-371)、坪井祐司氏がその翻案原案を作ることを決めた。日程は、12月6-7日に神戸大学で開催される東南アジア史学会大会の前後の日程のいずれかとし、メーリングリストにて会員の意見を聴取して決定することが決まった。(文責:青山 亨)

第19回研究会報告

日時:2003年12月6日(土)9:00-11:45

場所:神戸大学六甲台キャンパス(文学部155演習室)

出席者:8名

1. 事務連絡・情報交換

(1) 研究会の今後の運営方針について議論がなされ、いくつかの財団に対して助成を申請する必要があるとの意見が出され、その可能性が検討された。最終的な結論には至らなかったため今後の検討をメーリングリストなどを通じて行うことが確認された。

(2) 今回の研究会には岡山市在住で一橋大学博士課程在籍の山口裕子氏が参加された。山口氏は、研究されている東南スラウェシ州ブトン島を中心に分布するブトン語文献にジャウィ文字が使われていることからジャウィ文字に関心を持たれたとのことであった。

(3) 山口氏より同じく岡山市から来られたテグー・セハヌディン(Teguh Sehanuddin)氏が紹介された。テグー氏は文書保存修復技術の専門家で、吉備国際大学社会学部文化財修復国際協力学科に在籍されている。スダ地方で作られている樹皮紙ダルワン(daluang, dluwang)の実物を持参されてきたので見せていただく。外見的には和紙に似た紙を製本したもので、テキストはジャウィ文字で表記されている。スダ地方では第二次世界大戦の後しばらくまでダルワンが生産されていたとのことで、テグー氏はダルワン紙の技術の継承とダルワン文書の保存に努力しているとのことであった。ダルワン紙はタバの原料でもあるカジノキ(*Broussonetia papyrifera*, コウゾ属)から作られた「紙」であるが、漉くのではなく叩き延ばして紙状にしたもので、製作方法の詳しい説明もあった。スマトラ島の樹皮紙の存在はよく知られているがジャワ島でもこのような紙が最近まで使われていたことは初めて知ったことであり、衝撃的であった。

(注:テグー・セハヌディンのカタカナ表記は本人の希望によるものである。)

(4) 事務局より、次号のニューズレターにおいてテグー氏によるダルワンについての紹介、坪井氏による今回の講読テキストのまとめを掲載したい旨、依頼がなされた。

2. テキスト講読

Jubilee Address by Perak ra'iyats, June, 1887. *JSBRAS* (1886) No.18, pp. 369-371. テキスト・翻字案提供:坪井祐司。1887年のヴィクトリア女王即位50周年記念に際してペラク在住の住民たちから送られた祝辞である。テキストの中心部分は4連1組のパントゥンの形式をとった韻文となっている。前回に講読したペナンからの祝辞と比較すると、美辞麗句に流れて内容が空虚なように感じられた。ヴィクトリア女王がキリストの庇護を受けていると言明されていること、現地駐在の理事官(resident) Hugh Low の名前が言及されていることが目に付いた。

3. 今後の活動

次の第20回研究会は、日程は6月12-13日に東京大学駒場キャンパスで予定されている第71回東南アジア史学会研究大会の前後の日程にあわせて開催し、講読するテキストは今後メーリングリストにて会員の

意見を聴取して決定する。事務局は、次回研究会にあわせて次号(11号)のニューズレターの発行をする予定である。(文責:青山 亨)

VIII. 事務局からのお知らせ:メーリングリストの名称変更

ジャウイ文書研究会では会員間の連絡のために Yahoo が提供している無料メーリングリストを利用しています。今年2月に Yahoo 側のサービス変更にともない、「Yahoo! eグループ」の名称が「Yahoo!グループ」になり、新しいサービスの追加が行われました。メーリングリストとしての基本的機能には変わりありませんので、会員の皆様はとくに何もしなくてもこれまでどおり投稿・受信という機能を使うことができます。ただし、以下の点にご留意ください。

- 1) 投稿記事に通し番号が付くようになり、記事の整理が便利になりました。(例:[jawi-study][00087] お知らせ)
- 2) ジャウイ文書研究会メーリングリストのメインページのアドレスが <http://www.egroups.co.jp/group/jawi-study/> から <http://groups.yahoo.co.jp/group/jawi-study/> に変更になりました。研究会のウェブサイトはすでに修正してあります。
- 3) 名称変更に伴い新しい機能が追加されています。これらの機能を使うためには Yahoo! JAPAN ID を取得(無料)する必要があります。関心のある方は、Yahoo ウェブサイトの説明(<http://groups.yahoo.co.jp/local/info/guide/main/egroups.html>)をご覧ください。すでに述べましたように、メーリングリストの基本機能のみを使う場合は、この手続きは不要です。

このニューズレターはジャウイ文書研究会の記録、および、ジャウイ文書研究会に役立つ情報提供を目的としており、研究会のメンバーには PDF 版で配布するとともに、研究会出席者に会場で配布しています。研究会に出席できない方でこのニューズレターの入手を希望される方は、希望する号を明記し、事務局までメールアドレスをお知らせいただくか(PDF 版希望の場合)、あて先を記入して 240 円切手を貼った A4 サイズ返信用封筒を同封の上、事務局までお申し込みください(郵送希望の場合)。なお、研究工具や資料、文献の紹介、研究報などの投稿を歓迎しますので、希望される方は事務局までご連絡ください。